

手を離なく親と子



令和4年9月発行 登別市教育委員会・学校教育グループ No. 13

新しい学びが目指すもの



私たちが迎つつある Society5.0（※注1）といわれる時代は、ICTの活用が前提となる世界です。子どもたちが、大人になり社会の中心として活躍する20年後、30年後はどんな社会になっているのでしょうか。

さて、学校では、GIGAスクール構想（※注2）によって、児童生徒1人1台端末と高速通信ネットワークを活用した学習が始まって1年半が経とうとしています。子どもたちの学びが、新しいテクノロジーを取り入れながら大きく変わり始めています。

この教育の技術革新は、「多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に公正に個別最適化され、資質・能力をいっそう確実に育成できるもの」であり、「特別な支援が必要な子どもたちの可能性も大きく広げるもの」です。このようなテクノロジーが毎日の学びに活用されることに大きな期待を持つと同時に、不安を持たれる方もいることでしょう。



ここで、今の私たち大人の生活を振り返ってみましょう。買い物の支払いはスマホでピッ、写真はカメラよりスマホ、人との連絡は電話ではなくLINEやSNS、ゲームや動画もスマホ…今や当たり前の日常です。誰もがインターネットを使うようになっておよそ20年、スマホで10年ちょっと。新しいテクノロジーは、私たちの仕事や暮らし、さらに人とのコミュニケーションの在り方も大きく変えてきました。

そのような中、2018年に行われた国際学習到達度調査(PISA)（※注3）でインターネットやパソコンをどのくらい学習へ活用しているかをみるICT調査では、日本の順位はダントツの最下位なのです。時代はどんどんスピードを加速させて、今この瞬間にも進んでいます。

子どもたちには、このようなテクノロジーを効果的に活用し、生涯にわたって自分の力で学び続けていく力を身につけさせることが大切です。1人1台端末をはじめとする教育への新しいテクノロジーの活用は、「誰もが、いつでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」の実現を目指しているのです。

◆（※注1） Society5.0

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会のこと。

AIやロボットのを借りて、私たち人間がより快適に活気に満ちた生活を送ることができる社会

◆（※注2） GIGA スクール構想

1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、更正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目指す国の取組のこと。

子どもたち全員へ教育ICT環境を提供する取組

◆（※注3） 国際学習到達度調査（PISA）

経済協力開発機構（OECD）が2000年から3年に1回行っている国際的な学力到達度調査。

多くの国で義務教育の終了段階にある15歳の生徒（日本では高校1年生）を対象に、読解力、数学、科学の3領域を重点的に調査している。2018年の調査は79か国、約60万人を対象に実施された。

